

# 大野ダムの事前放流に係る実証実験（最終）の結果について

（令和2年10月26～27日実施）

京都府建設交通部河川課  
大野ダム総合管理事務所

平成30年度に実施された、「京都府大野ダムの洪水調節機能と情報の充実に向けた検討会」の結果に基づき、以下のとおり、事前放流に係る実証実験を行いました。

## 1 事前放流とは

事前放流とは、台風等による大雨に備え、予め貯水位を下げて洪水調節容量を増大させ、異常洪水時防災操作（緊急放流）<sup>\*</sup>の移行リスクを低減し、下流域の治水安全度の向上を図ることとしています。

## 2 実証実験の目的

最低水位の標高155mから2m下げた標高153mを目標水位とする事前放流の運用を、令和2年8月25日より開始したところですが、今回、更に3m下げた標高150mまで水位を低下させる実証実験を行い、ダム管理設備、貯水池、ダムからの放流水などへの影響の有無について確認するものです。

## 3 実施概要

日時：令和2年10月26日（月）午後1時00分～10月27日（火）午後5時00分

最大放流量：99.64m<sup>3</sup>/s

実験時最低貯水位：標高149.97m

## 4 実験結果について

- ・ダム管理設備（制御処理設備及び放流設備等）への影響はなかった。
- ・ダム貯水位の低下に伴い、貯水池に濁りの発生を確認した。なお、ダムからの放流水がやや濁った（最大濁度約20度）が、令和2年7月出水時（最大濁度約170度）と比較し、濁りの程度は小さいことを確認した。

## 5 今後の予定について

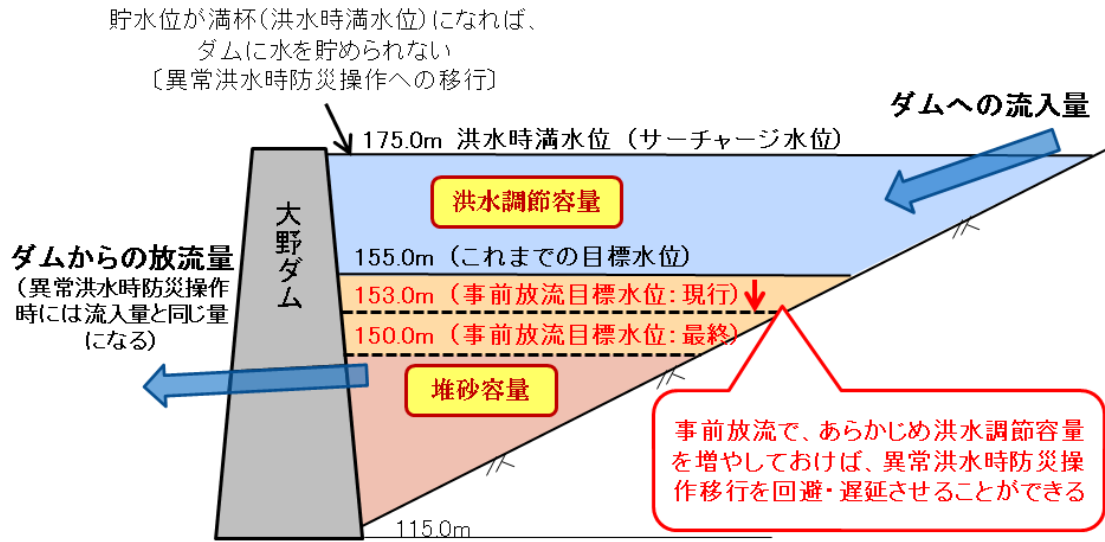
事前放流の実施に必要な管理用船舶の係留施設の改修を完了させ、令和3年度の洪水期から最終目標貯水位150mとする事前放流の運用を目指します。

（\*）異常洪水時防災操作（緊急放流）

計画を超える規模の出水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じた場合、放流量を徐々に増加させ、流入量と同程度を放流する操作

# 事前放流のイメージ図

## 事前放流の効果 <異常洪水時防災操作のリスク軽減>イメージ図



※令和2年8月25日より、目標水位標高153m(2m低下)での運用を開始

## 貯水池、下流河川の状況

貯水池 (肱谷橋付近)  
 (堤体上流 5km 付近)



貯水池 (向山橋付近)  
 (堤体上流 2km 付近)



下流由良川 (道の駅和付付近)  
 (堤体下流 10km 付近)

